

令和 4 年 8 月 定例教育委員会 会議録

◇開 会	令和 4 年 8 月 25 日 (木)	午前 9 時 00 分
◇閉 会	令和 4 年 8 月 25 日 (木)	午前 10 時 10 分
◇会 場	3 F 「教育委員会会議室」	
◇出席者	教育委員会	
	・教育長	片 山 則 昭
	・教育長職務代理者	深 田 俊 郎
	・教育委員	安 田 真 理
	・教育委員	上 羽 裕 樹
	・教育部長	藤 原 泰 志
	・教育部次長兼学校教育課長	池 内 晃 二
	・社会教育・文化財課長兼植野 記念美術館副館長兼中央図書 館副館長兼歴史民俗資料館長 兼氷上回廊水分れフィールド ミュージアム館長	山 内 邦 彦
	・教育総務課総務係長	足 立 真 澄
	・教育総務課主事	足 立 華 苗
	まちづくり部	
	・まちづくり部長	井 尻 宏 幸
	・人権啓発センター所長	堂 本 祥 子
	・文化・スポーツ課長	宮 野 真 理

(片山教育長)	<p>皆さん、おはようございます。新型コロナウイルス感染症がひどい状況になっており、その影響で若干お休みの方もおられる状況でございますが、ただいまから8月の定例教育委員会を開催いたします。</p> <p>会の進行上、発言の際には、必ず氏名を名乗ってから発言していただきますようお願いいたします。</p>
日程第 1	前回会議録の承認
(片山教育長)	<p>日程第 1、前回会議録の承認についてですが、7月28日の定例教育委員会会議録の承認は、深田教育長職務代理者と横山委員をお願いいたしました。</p>
日程第 2	会議録署名委員の指名
(片山教育長)	<p>日程第 2、会議録署名委員の指名についてですが、本日の会議録の署名は、安田委員と上羽委員をお願いいたします。よろしく願います。</p>
日程第 3	教育長報告
(片山教育長)	<p>日程第 3、教育長報告に入ります。別紙により報告いたします。</p> <p>28日木曜日、定例教育委員会、引き続き総合教育会議がございまして、幼児教育、保育、園小連携等について協議いたしました。</p> <p>令和4年度第1回市町村教育長・教育委員会研究協議会、オンラインではありましたが、内容は地域と学校の連携・共存についてと部活動の地域移行についての2点の情報交換をいたしました。前半はコミスクが形骸化しないような取組の必要性を感じました。後半の部活につきましては、いろいろと課題が非常に多い状況を感じましたので、まだこれからかなという思いです。</p> <p>29日金曜日、兵庫パルプ工業との情報交換、工場が非常に大きい故に、</p>

臭いのことだとか、火災のことだとか、トラックの交通指導等によく気配りされていると思っております。

30日土曜日、兵庫県人権教育研究大会丹波地区大会、開会行事のみ参加いたしました。その夜、生郷の水分れまつりに参加してまいりました。コロナ禍ではありましたが、久しぶりに近所の方が集まられて、皆さん非常に喜んでおられる、弾けておられるというような感じを受けました。

8月1日月曜日、政策会議がございまして、建設部都市住宅課から丹波市の都市計画マスタープラン改定版の説明がありました。難しいことはたくさんあると思いますが、住み続けたいと思えるようなまちづくりに教育委員会としてどのように関わっていくのかを真剣に考え、実践していく必要があると思いました。

続いて、災害対策本部会議、くらしの安全課から集中豪雨など最近いろいろありますので、そういったことについての話がありました。男女共同参画推進本部会議、続いてデジタル推進本部会議がございました。

2日火曜日、山南支所庁舎の自衛消防訓練をみんなで行いました。素早く皆避難できてよかったと思えます。

学校管理職候補者選考試験、1名はコロナの関係で受験できなかった方が来られて受験されました。

3日、兵庫県へき地教育の研究大会の事前説明、大路小学校、西小学校、北小学校、今田小学校の校長が来られました。令和5年度10月12日から13日にかけて姫路市を中心に、兵庫県の各地で研究大会が行われる予定です。

4日木曜日、丹波少年自然の家事務組合教育委員会会議がございまして、教育委員の方にもお世話になりました。今後のことについてのいろいろな質問がありましたが、これからどう対応するか難しいという状況が分かったように思います。

8日金曜日、第5回小中学校校長会がありまして、オンラインで行いました。9月に新学期が始まりますと、不登校のことが気になったり、自殺のことが気になりますので、具体的に不登校についてどのような取組が必要なのかということについて、経験上感じることを何点かお話しさせていただきました。

10日水曜日、鴨庄地区で毎年かかしまつりが行われておりますが、教育長賞の選定に行かせていただきました。

17日水曜日には、県の指導主事の採用候補者の選考試験がございました。

18日木曜日、全県夏季教育委員会研修会、1日目と2日目とありましたが、1日目は前世田谷区立桜丘中学校の西郷先生のお話、それからネット犯罪について兵庫県警のサイバー犯罪対策課の本田英理警部補の話を聞かせていただきました。ユニークな取組をやっている中学校があるなということで、丹波市で参考にできることが幾らかあるのではないかという感想を持ちました。サイバー犯罪につきましては、やはりこういう時代ですので、しっかりと認識して対応していく必要があると思いました。

それから、学校管理職の第一次試験受験者研修会がございました。

19日には2日目がございまして、コミスクの可能性ということで、CSマイスターの方が積極的に各地区で取り組んでおられる事例をお話しされました。丹波市内でも立ち上げはしていますが、さらにできることがあるのではないかという感想を持ちました。

20日土曜日、朝5時半でしたが夏期巡回ラジオ体操みんなの体操会に参加してまいりました。約700名が参加しておられました。雨が降らなくてよかったと思えます。

23日、戦略的事業ヒアリング、社会教育・文化財課の事業で行ってまい

りました。新しいボードゲームを作ろうという内容です。非常にいい感触を持ちました。

今日25日が定例教育委員会。この後、教育総務課の戦略的事業ヒアリングに行つてまいります。主に県立高校の支援をどうするかと、給食に対する支援をどうするかという話の内容です。

27日土曜日、「竜学」実施説明会、徳島県の勝浦町に8名の予定でしたが5名しか集まらず、5名参加することになっておりますので、激励してきたいと思います。

29日は認定こども園わだから面談の依頼があったので、どういう内容か分かりませんが、私が会うことにしております。

私からは以上でございます。

ただいまの教育長報告につきまして、何か質問ございませんか。ありましたらお願いいたします。よろしいですか。

日程第4

議事

議案第44号 丹波市教育委員会後援名義の使用承認について

(片山教育長)

それでは、日程第4、議事に入ります。議案第44号、丹波市教育委員会後援名義の使用承認について、事務局より説明をお願いいたします。

(足立教育総務課総務係長)

議案第44号、丹波市教育委員会後援名義の使用承認につきまして、御提案申し上げます。

今回の審議案件は2件です。1件目は資料4ページからの特定非営利活動法人丹波ひとまち支援機構が主催される、まなびの里プロジェクト「学校を核とした地域づくり」講座です。実施は9月10日土曜日、10月15日土曜日、11月12日土曜日の3回で、実施場所は市民プラザです。

資料5ページは事業に関わる収支予算書、6ページは事業の告知チラシ、7ページは法人の概要となっております。

この事業につきましては、同法人が7月にも実施されており、6月の定例教育委員会で後援名義使用が許可となっております。

2件目はたんばDE第九実行委員会が主催される「たんばの第九2022」演奏会です。実施日は令和4年12月18日日曜日、会場はライブピアいちじま大ホールです。

資料10ページから16ページまでは丹波市活躍市民によるまちづくり事業応援補助金交付申請書で、事業概要、収支予算書などが示されております。

この事業につきましても、昨年度後援名義使用を許可している事業になります。

両事業とも丹波市教育委員会後援名義使用許可に関する要綱第3条の許可条件に適合しており、かつ要綱第4条の許可の制限に該当していないことから、許可決定が妥当と判断しております。

以上で丹波市教育委員会後援名義の使用承認につきまして、提案説明とさせていただきます。

(片山教育長)

2件ありましたが、委員のほうから何か御意見、御質問ございませんか。

(深田教育長職務代理者)

最初の学校を核とした地域づくり講座について、後援名義の使用について異議はないですが、6月に一度承認して、それで7月に実施したという話がありましたが、9月、10月、11月の内容を見させていただいて、これは

まちづくり部の補助を受けてのNPO活動になるのでしょうか。その辺お聞かせ願いたいです。

(井尻まちづくり部長)

この内容は資料にもありますが、たんえんが独自でひょうごボランティア基金を申請して、NPOの活動として申請されているものであります。独自の事業ではあります、6月に後援申請があったときにも予告として9月から11月までの期間の内容は定めてありましたが、まちづくり部市民活動課には直接のこういった内容の具体的なことについてはほぼ調整がなかったということでございます。

(深田教育長職務代理者)

要はこれからの内容ですが、コミュニティスクールマイスターの方が3名来られて、1名は一度私たちも話を聞いた方ではあります、中には島根県の教育長さんが来られてお話をされるように、学校を中心とした、教育委員会が進めているコミュニティスクールと相当重なっている部分があります。まちづくり部も教育委員会がこのコミュニティスクールについてどう進めているかというのは、実際に参加もいただいて御覧いただいていると思いますが、まだ課題が多いです。地域から考える学びの未来会議も何回か開催する中で、コミュニティスクールは設置されていても運用面の課題がまだ散見されます。したがって、ひょうごボランティアプラザの助成金を受けてこのプロジェクトを進められていますが、まちづくり部としても教育委員会が進めているコミュニティスクールの課題もよくご存じだと思いますので、調整ができていなかったというお話でしたが、重ならず、効果的な進め方ができたらよかったと思っているところです。その辺について何かお話を聞かせていただいたらと思います。

(井尻まちづくり部長)

「学校を核とした地域づくり講座」という名称であります、コミュニティスクールが軸になっております。第1回目の学びの里プロジェクト交流会の実施の際には、地元の南小学校の関係者の方々を中心にした交流会を行っておりますので、その際にも学校教育課、教育委員会とも調整がされていたと思いますし、また、学校関係者だけではなかなか進められないということで、社会教育といいますか、地域からも関わらなくてはいけないということについては我々も承諾した内容であります。

具体の計画については、タイトルは以前に決まっていたのですが、講師としてお呼びする方が決まったということでの今回の報告です。一定の認識はありましたが、具体的にこういう方法で対象者をこういった方々に絞って、定員をこれぐらいの人数でやるということについては、まちづくり部では確認できていなかった状況であります。教育委員会とまちづくり部とは社会教育の推進連絡会を持っておりますので、そういった場所ですっかりと今後については調整をしていきたいと思っております。

(深田教育長職務代理者)

要は効率的にと言ったら語弊がありますが、個人的な思いですが、丹波市の場合はコミュニティスクールが全校小学校に配置されて、中学校はこれからというところで、実質的にそのコミュニティスクールの運営に関わる学校運営協議会、あるいは地域学校協働活動推進員等があまり機能していないのが、個人的には感じています。教育長から説明があった、全県の教育委員会の研修会ですが、これも横浜のコミュニティスクールマイスターの方に、すごく整理立ててお話をいただきました。やはりその話聞いても、学校支援コーディネーターとか、その学校と地域を取り持つ人たちの意識づけみたいなものがまだ足りないという印象があります。その辺りも考えていただきながら、この部分、今からでも例えばコミュニティスクールマイスターの方々

にこういう点で丹波市の学校をサポートしていただける話や、こちら側からアプローチしていきながら話していただけるようにすれば、また少しずつ変わった動き、講演になるのではないかと思いますし、活用できる意見がたくさん聞けるのではないかと思います。後援は全然やぶさかでないですが、今部長が言われたように、話を進めながらよいものにしていただけたらありがたいと思います。

以上です。

(井尻まちづくり部長)

勧め方について整理をしていきたいと思います。ありがとうございます。

(片山教育長)

私がこの前の研修で深田委員と一緒に聞いた印象ですが、コミスクが丹波市の場合まだ課題があるというお話ですが、確かにそれはそうであると思いますが、運営協議会の委員として、委員にどんな人を選ぶかというのが一番大事ですよという話が一番印象に残っております。単純に自治会長さんとか、自治協議会の会長さんに委任するのではなく、地域づくりに前向きで熱心な、そういう委員さんの選定が最も大事ですっていうようなことを言われておりましたので、もし事前に調整できるのであれば、その辺りのところ、例えばお話ししていただけたら、というようなことは感じます。

(井尻まちづくり部長)

今回の学校を核とした地域づくり講座の内容については、好事例を通じていろいろなヒントを皆さんに情報提供をするという内容となっております。参加者の方が来られたときに質問があったらそういう回答をされるのではないかと思います。今進められている好事例を中心に説明しながら、苦労したこと、うまくいったこととお話しされるのではないかと思いますので、詳細は確認していませんが、今回はそのように進められると思います。今後の調整については学校教育課で進められている内容と併せて、市民活動課と、たんえんと三者で連携して調整をしていきたいと思います。

(片山教育長)

ありがとうございます。ほかございませんか。

それでは採決いたします。

議案第44号、丹波市教育委員会後援名義の使用承認について採決いたします。同意される委員の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

(片山教育長)

挙手全員でございます。ありがとうございます。

よって、議案第44号、丹波市教育委員会後援名義の使用承認について承認いたします。

日程第5

報告事項

(1) 寄附採納報告

(片山教育長)

続きまして、日程第5、報告事項に入ります。(1) 寄附採納報告についてお願いいたします。

(足立教育総務課総務係長)

今回の報告は1点になります。資料は20ページ、21ページです。

西小学校に対しまして、葛野地区寺院団様よりホワイトボード衝立ほかにつきまして寄附申出があり、これをありがたく採納することといたしましたので、御報告申し上げます。

以上です。

(片山教育長)

ただいまの報告につきまして、何か質問はありませんか。よろしいですか。それでは、質問がなければ寄附採納報告終わります。

(2) 行事共催・後援等報告

(片山教育長)

続きまして、(2) 行事共催・後援等報告お願いいたします。

(足立教育総務課総務係長)

行事共催・後援等の報告につきましては、資料22ページに掲載しておりますとおり、「令和4年度巡ろう兵庫歴史遺産ウォーク in 丹波」をはじめとして、全部で3件でございます。今回の報告につきましては、1件が共催、2件が後援依頼となっております。それぞれ丹波市教育委員会後援等名義使用許可に関する要綱に基づき許可条件に適合し特に問題がないこと、また公的または恒例の行事であるため、専決処分により許可をしたもので、報告させていただきます。

以上です。

(片山教育長)

ただいまの報告につきまして、何か質問はございませんか。それでは、質問がなければ行事共催・後援等報告を終わります。

(3) 令和4年度全国学力・学習状況調査結果の概要について

(片山教育長)

続きまして、(3) 令和4年度全国学力・学習状況調査結果の概要についてお願いいたします。

(池内教育部次長兼学校教育課長)

4月19日に実施いたしました、全国学力・学習状況調査の概要について御説明させていただきます。23ページを御覧ください。

この調査の目的は、資料の1にあります3点でございます。

調査の内容は、(1)の教科に関する調査と、(2)の生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査となっております。教科は、国語、算数・数学に加え、本年度は4年ぶりに理科の調査もございました。

実施状況についてですが、小中学校、小学校6年生、中学校3年生の実施なのですが、東小学校につきましてはコロナ感染症の影響で後日実施となりました。

それでは、調査結果について説明いたしますので6番を御覧ください。

まず、教科に関する調査についてですが、小中学校とも3教科全て全国の平均正答率と同程度でした。

令和3年度と比較すると、小学校国語においては学力低位層、高位層ともにほぼ同程度の割合でした。算数については低位層、高位層ともに減少し、中間層が増加いたしました。中学校においては、国語、数学ともに高位層が増加し、低位層が減少する結果となりました。

また、理科については、前回の平成30年度と比較してみますと、小中学校ともに同程度という結果になりました。

続きまして、教科ごとに成果と課題の概要を説明いたします。

まず、小学校国語についてですが、文章のよいところを見つけて書くことや、漢字や仮名を書くことについて成果は見られました。反対に、自分の考えをまとめることや、描写を基に捉えることに課題が見られました。

続いて24ページです。

小学校算数についてですが、場面解釈し、情報等に求めることができる理

由を記述するであるとか、図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質、構成の理解について成果が見られました。反対に、目的に合った数の処理の仕方を考察すること、割合や基準量から比較量を求めること、データの特徴を捉え考察することなどに課題が見られました。

小学校理科では、結果を分析して自分の考えを持つことや、昆虫の体のつくりの理解に成果が見られました。また、実験の過程や得られた結果を適切に記録すること、結果を通して問題を解決するまでの道筋を構想して自分の考えを持つことに課題が見られました。

続いて中学校です。国語ですが、描写を基に捉える、表現の方法について理解する、また表現の工夫に成果が見られたものの、心情を表す語句についての理解や、論点の展開などに注意して聞くことに課題が見られました。

続いて数学ですが、データの傾向を的確に捉え、数学的な表現を用いて説明することに成果が見られました。素数の積で表すことであるとか、考察の対象を明確に捉える、一次関数の理解、表やグラフからの情報を適切に読み取ること等に課題が見られました。

続いて理科についてですが、画像やデータを天気図に関連づけて、天気の変化を分析して解釈することに成果が見られました。反対に、岩石に関する知識・技能を活用することであるとか、地層を分析して解釈することに課題が見られました。

続いて(2)の生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査です。

「基本的な生活習慣」についてですが、おおむね基本的な生活習慣が身につけていると考えられます。しかし、平日のテレビゲームの利用時間が中学校で全国平均を上回っている状況です。

「規範意識」については、困り事や不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できるとした、回答した割合が小学校で全国平均を上回っており、中学校では同程度ということでした。

「自尊感情と夢や目標を持つこと」については、自分によいところがあると回答した割合は全国平均と同程度です。ただ、夢や目的や目標を持っていると回答した割合は、全国平均を下回っております。

「地域社会への関心」については、行事に参加していると回答した割合については、小中とも全国平均を大きく上回っております。また、社会をよくするために何をすべきか考えることがよくあると回答した割合は中学校では同程度でありましたが、小学校では下回っております。

次に、「主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善」についてですが、授業の内容がよく分かると回答した割合は小中ともに全国平均です。ただ、自分で考えたり、自分の考えを深めたり、広げたりすると答えた割合も全国平均と同等でございました。作品や作文など、新しいものを作り出す活動を行っているとか、自分の考えをまとめる活動を行っている割合が小中ともに下回っていたという状況です。

続いて、「ICTを活用した学習状況」についてですが、小学校は全国平均と同程度、中学校は全国と比べて大きく上回っており、昨年度と比較しても大きく上回っている状況です。ICTを使うことが勉強の役に立っていると思う、勉強のために使っていると回答した割合ですが、これも全国平均と小中とも同程度でした。ただし、授業の中で意見交換をするであるとか、発表をする場面で使っていると回答した割合については小中ともに下回っている状況でした。

最後に、今後の流れについてですが、各校でこの調査を分析しまして、改善策をまとめ、2学期からの授業改善を進めていきたいと思っております。そのためにも、校長会において市全体の調査結果を報告し、授業改善の方向性などについて共通理解を図り、その後、指導主事訪問等を行い、授業改善

の進捗状況を図るとともに、学校の組織的な取組になるように支援してまいります。また、調査結果の公表については、10月下旬には市全体の結果の概要の公表を予定しております。各校においては、調査結果の公表資料を作成し、11月中旬以降に公表するよう指示してまいります。

今年度の丹波市学習定着度調査については、小学校3年から中学校2年生を対象に12月13日を予定に、国語、算数・数学の教科において実施する予定でございます。

以上です。

(片山教育長)

それでは、ただいまの全国学力・学習状況調査の結果の概要について何か御質問、御意見等がありましたらお願いいたします。

(深田教育長職務代理者)

最後の今後の流れのところの(1)番に、改善策を基に授業改善を進めるということですが、10月下旬に公表するということから、ある程度頭の中にあるのではないかと思います。課長から現時点でよろしいので、まず1点目ですが授業改善を進める、こういうところに課題があって、こういうふうにしてほしいというような、漠然としたものでもいいので、言っていただくことと、それから一番下に(6)番のところ、この学力・学習状況調査と並行して、丹波市独自の学習定着度調査、小3から中2までやっておられるということで、ここの関係と言いますか、全国平均というようなことがありましたが、この調査自身がどのような役割を持っているのかということが分かたらお伺いしたいのが2つ目です。

それから、もう一つですが、各中学校3年生と小学校6年生のこの学力・学習状況調査、全国平均という言葉がたくさん並びますが、丹波市に住む子どもたちが学習環境等の状況についても全国平均と一緒であると。都市部に住んでいる子どもたちも、郡部に住んでいる子どもたちも変わらずに平均化しているというようにも捉えられます。要は、緑が多くて自然環境が豊かだというようなこの丹波市において、地域に対して、例えば行事に参加している率がどの程度であるとか、下回っているとかいうようなことがあって、どうなのだろうかと。ここだけでも突出してほしいというようなところがあるのですが、それもまた同程度であるという、その辺の感想と伺いますか、思いを聞かせていただいたらありがたいと思います。

この3つよろしく申し上げます。

(池内教育次長兼学校教育課長)

まず1点目の授業改善についてですが、この(1)に書いてある部分については、まず各校でこの7月の終わりに各校への結果が行っております。それをきっちり夏休み中に各校でその学校の課題を分析して、その学校なりの授業改善をしていくというところで、学力向上具現化プランにまとめて出ささいということですので、これは各学校でやっていく部分ではございます。ただ、今度9月2日に校長会持ちますが、そのときには市全体の調査報告をこちらから上げていくのですが、まだ各指導主事が各教科について分析をしている状況で、ここっというのはまだ決まり切っていない状況ではあります。私もできている問題、丹波市が全体的にできていない問題を少し分析しましたが、そこにも書いてあるとおり、どうも自分で考えるというか、その個所が結構どの教科見ても、どの小学校6年生見ても、少し弱いというのを私自身は感じています。ですので、その辺を指導主事とも相談しながら、どう高めていくか。教育長訪問のなかでも、ICTや対話ってところが、なかなかできにくい状況で、自分の考えを出すであるとか、聞くとか、そういうところが少し弱くなっているように感じますので、今後コロナとの関連もあります。そこは授業改善して考えていくべきところではないかと思っ

ている次第です。

まず、次2点目の丹波市の学習定着度調査については、私も昨年度の結果しか見ていませんが、これと全国学調とどう関連していくかっていう部分については、やはり経年で見ていきますので、全国学力・学習調査だけでは6年生と中学校3年生というだけになります。ですので、やはり3年生から課題がある学年であるとか、3年生ができていたのに下がったとか、そういうふうに見ていく意味ではこの調査は非常に効果的ではないかと思っておりますので、やはり3年生に課題があったら早めに手も打てますので、そういうことも含めて必要であると私自身は感じております。それをどう関連づけさせるかっていうのはこれからの課題があらうかと思いますが、こういうことは実施しながら、きっちりと昨年度の結果、今年の結果を含めて考えていきたいと思っております。

最後の地域社会への関心のところですが、細かなデータが少し見えにくいですが、一応行事に参加している割合は、丹波市はほかの全国平均と比べてみると、毎年、結構高いです。数値的にははっきり分かってないですが、高いように聞いております。ただそこにも書いてあるとおり、その地域参画という意識については低いのかと思います。行事には行っているけども、さあ地域に対して自分は何ができるかであるとか、そういうところの考えとか、前向きな将来に向けた自分はこうしていきたいというようなところは、弱さを感じておりますので、その部分については中学校ではトライやる・ウィークとか、トライやる・アクションとかやっていますが、そこも連携させたり、小学校のふるさと教育とかいうことを関連づけたりしながらやっていく必要があると思っております。

(深田教育長職務代理者)

1点目の改善策等については、確かにこの分析に書いてありますように、考える力、基礎的なところは繰り返しドリル形式で、それはまあ古いやり方ですので、それも十分にやっておられますが、考える力とか郷土的な授業の中で問題を解決していくというような、そういう部分はまだまだなっていない、背景にいろいろとそれはあると思います。先生方のいろいろな年齢構成の問題とか、あるいはいろんな形の学校独自のことがあると思います。そういう辺りも考えつつ、やっていかないと仕方ないと思います。これに、個別最適などという部分が入ってきますので、個々にそれぞれ力が違うので、それに最適な形でどう力をつけていくかというのが、これまた難しい問題になっていくと思いますが、ステップを次々とクリアしながらやっていっていただければありがたいと思います。

2点目、3点目については、今お話あったとおりであります。私個人的には肌感覚で子供たちと一緒にいて思うのは、ゲームの中学校での全国平均を上回っているという、多分来年も上回ると思います。もう相当な状況だと思います。今の中学2年生を見ても、ゲームをよくやっているというような感覚があります。その時間、自分の何か個性の中へ捉まえて、このゲームを活用している子もいますが、ほぼ時間に流されていっているという、そんな感じがします。そのゲームをやっているいろんな効果というのは世間では言われていますので、その辺り止めつつ、何かこのいろんな課題があるかというような思いと、先ほどコミュニティスクールのことを言いましたが、それぞれの学校独自の課題が出てきますので、地域と共有しながらやっていくという、そして地域に手助けいただくという、そんな姿もあっていいのではないかと思います。今は学校内で子供たちの学力という切り口からも情報分析をして、学校内で一生懸命やっておられますが、またそれを地域と共有しながら、保護者と共有しながら、子供たちを中心に据えて、どうやっていったらいいか、学校は学校として頑張りますが、地域は地域として、家庭

は家庭として何かできることないだろうかという、これが極めて頭を悩ませながらやっていくべきことかと思っております。また、非常に難しいことですが、やっていただいたらありがたいと思っております。

以上です。

(池内教育次長兼学校教育課長)

授業改善については、先ほど言われたように、考える力というのは対話とか、それだけではなくて、今まででしたら繰り返しドリル学習的な深め方をしていましたが、今は自分が持っている知識や技能を活用して、さらに深めていくという流れに実は変わってきていますが、なかなか教師自身がそこにシフトチェンジできない、どうしてもドリル学習だけでやってしまうというところがあって、なかなか深い定着につながらない部分はどうしてもあるのかとは感じておりますので、その辺をまさに授業改善していかないといけないということと、あと言われた個別最適化で、今まででしたら45分、50分の授業があれば最後まで一斉授業でやっていたのを、半分ぐらいからはタブレットドリルを使うであるとか、そういうふうに個別に応じたような、子供たちが選んでするような授業展開というのがこれから大事になってこようかと思っておりますので、そういう部分についても推進していきたいと考えております。

ゲームについては、もうゲームだけでなく、やっぱりスマホもかなり影響しておりますので、スマホのユーチューブであるとか、SNSであるとか、教育長も言われていたサイバー犯罪とかいろいろありますので、それは一応家庭には訴えかけとして、家庭でルール作りましょう、学校でルール作りましょうっていうのはずっと啓発はしている状況ですが、ゲームの時間、スマホの時間と学力が相対関係にあるみたいなデータもございますので、その辺も含めてこれからさらに啓発していきたいと考えています。ありがとうございました。

(片山教育長)

ほかございませんか。

(上羽教育委員)

25ページの「自尊感情と夢や目標を持つこと」という部分で、夢や目標を持っていると回答した小中学生の割合が全国平均を下回っているとありますが、これは夢がないという状態なのか目標が、または、今探している状態ということなのか、この文章だけでは捉え方が変わってくるかと思っております。今探している状態で悩んでいる状態なのか、本当はないのか、教えてもらいたいと思います。

(池内教育次長兼学校教育課長)

この質問紙の問いかけとしましては、「将来の夢や目標を持っていますか」だけです。ですから、「今考えています」とか、そういう選択肢は実はこの中にはないので、あるかないかだけみたいな問いになっております。この辺がつかみ切れてないというのはあるので、これだけをもって自尊感情がある、ないっていうのは少し判断をしにくいとは思いますが、しかしながら「ない」と言い切っている子が多いのは事実なので、やはりその辺は課題であるだろうとは感じます。

以上です。

(上羽教育委員)

結構乱暴な質問の仕方ですが、自尊感情が高まっているというのはいいことだと思いますし、夢や目標というのも持てればいいとは思いますが、どのように学校の中で指導していくというか、高めていく施策というか、その辺りは勉強以外の部分にもなると思いますので、各学校どう取り組まれるのか少し気になりました。

(池内教育次長兼学校教育課長)

この質問紙の中にそのほかに、「自分でやると決めたことをやり遂げるようにしていますか」であるとか、「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦していますか」というような問いもあります。それは案外低くはないというところですので、夢や目標と言われたら「ない」のかも知れませんが、自分でやろうとしている数値はそんなに低くないので、それが夢と目標につながっていないのか分からないですが、自分自身は頑張っている、ただ先が見えてないのか、そういう意識がないのかはつかめていません。キャリア教育とずっと言われていますので、そういうことも深めながら、やはり自分自身で目標を持ってやるという意識は持たしていく必要があるのかと思います。子供自身はやろうとはしている、ただその意識が少し薄いのかも知れないと、データ見て思います。

以上です。

(片山教育長)

よろしいですか。ほかございませんか。

(安田教育委員)

上羽委員の御意見と少し重なるところがありますが、南小学校の令和たんば塾の講師で参加させていただいたのですが、その際にキャリア教育についてとか、地元で仕事をする事について15分間講演をさせていただいて、その後、工作をさせていただきました。最後終わった時点で質問を何個かさせていただいて、質問の中に「どんな大人になりたいですか」とか、「どんなことに興味を持っていますか」という項目があったのですが、やはり子供たちに漠然と「将来ってどうなりたいですか」という質問は正直難しいのではないかと感じております。

一人の女の子に「どんなことが好き」とか「最近どんなことに興味ある」というふうに細かく問いかけをすると、「海外旅行をしてみたい」という答えが返ってきて、「何で海外に行きたいの」と聞いて、「いろいろな人がいて、いろいろな国の言葉を覚えられるから」と答えてくれた子がいました。さらに突っ込んで、「なぜそれを興味持ったの」と聞いてみると、「テレビを見ていて、いろいろな言葉を話せる人がいろんな場面で役に立っている」という、すごく聞けば聞くほど細かい回答が返ってくる。だから、質問項目をもう少し砕いてあげないと、聞き出すというのはできないのではないかと感じました。難しいことかもしれませんが、目標設定にしても目標設定のやり方、大人でも一緒ですが、もう少し聞くほうの質問力も高めないといいけないということを感じております。

以上です。

(池内教育次長兼学校教育課長)

ありがとうございます。漠然とした、どうしてもそのようになると思いますが、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という項目があって、小学校はほとんど100%、中学校も95%ぐらいというふうに、何か漠然とですが、人の役には立ちたいと子供たち自身は思っていることが、今そのデータ見てうれしく思いました。今は子供に聞く時間というものもなかなか取れていない状況だと思います。ですので、今後また2学期始まって、体育祭とか運動会とか、子供たちは結構また我慢を強いられるような状況に実はなっていくのではないかと一番私自身は心配していますが、やはりその中でも子供たちの意見を、たった一つの体育祭とかでも意見を聞くとか、子供の思いに寄り添うみたいところは大事にしてほしいということ、教育長から今度の校長会で言っただけだと思います。コロナ禍なので当たり前ではない、できないことでも子供の思いはどうかをきっちりと捉えてくださいなっていうことは伝えていきたいと思っております。ありがとうございました。

(深田教育長職務代理者)

今の御意見それぞれ聞いていてと思いますが、タブレットが普及して、情報を得るっていうのは私たちの小さいときよりも格段も上でして、今の海外旅行の話だって、いろんなコラムがあったり、動画があったりして、いろんなことの情報得られる。僕らのときなんか、海外旅行のことは「兼高かおる世界の旅」など、それぐらいしかなかったですが、そんなことを比べても全然違う量の子供たちは得ている。ただその情報はいろんなところで左右されているっていうことを、例えばランキングとか、行きたい国ランキング、食べたいものランキング、泊まりたい宿ランキング、そのようなことで操作されていると思います。

もう一つはその情報を得て、また今のそのコロナの話がありましたが、この3年間で、特にこの中学生の3年間、いろんなものに触れたり、いろんなものを感じたりする、そういうことがもうできなくなっているという。逆にいうと、何かその体験活動、いろいろと自分たちの体験する、経験するっていう、自分の目をバーチャルで、そんなことがもうなくなっているというので、その経験をこれからたくさん踏まえさせないといけないかと思いません。踏まえさせるって傲慢な言い方ですが、それはやはり少なくなっているのではないかと思います。ですから、先生方も大変ですが、今の学力のことやとか、丹波市の独自性だとか、家庭や地域との関わりとか考えつつ、子供たちのこれからの社会に生きていく姿をどう捉えていくかというのはなかなか難しいですけども、少なくとも今言ったように、やっぱり人を思いやる力が100あるという、その辺りを大事にしつつ、情報を得て的確な夢や希望を持てるような、何かそんなことを教育委員会事務局としても訴えつつ、学校に訴えつつ、先生方に訴えつつ、子供たちを学び育てていただけないかと、そんな思いはします。

(片山教育長)

ありがとうございます。よろしいですか。

ほかございませんか。

私のほうから一言だけですが、私と次長も一緒に教育長訪問で各学校を回ったときに授業を見せていただいて、次長や指導主事のほうから、今日の授業はこうでしたというようなことで、感想を言われること聞いて、その中で、ここに書いてある中でいうと、自分で考えて、自分で行動をするような力、また自分で話し合うような力がどれだけ身につけているのかというような観点で、次長や指導主事が話されることが非常に多い状況の中です。例えば、夢や希望を持つということもそうですし、スマホの時間をどれぐらいにしたほうがいいのか、ゲームの時間、それもそうですし、自分で考えて、自分でどう行動するのかというふうな授業がどれだけできているかどうかということにかかってくると思います。安田委員がおっしゃったような中身のことも、そうやって聞いていくといくらでも答えてくれるということは、そういう授業の在り方になっているのかどうかみたいなことも当然関連してきますし、深田委員がおっしゃった地域への参加の話も、水分けのまつりでも、飲み食いには来ているけれど、裏方に回って手伝いしている子はいないという、要するにそういうことと思うのですね。だから、まちづくりの中でも、自治協議会の中でも、やはり年寄りばかり集まってやるのではなく、例えばそこに中学生、高校生を入れた計画をどうやって立てるか、みたいなことも重要になってくると思います。今の子供、考えること結構たくさん持っていると思います。いろんなこと今結果で出てきているようないいことは思っていると思います。ただ、具体的にどう動いたらいいのか分からない、そこは大人側のやり方、持っていき方が大事かと思えます。特に学校の中においては、先ほどから次長が言っているように、授業をどう改善していくかということに、

簡単に言ったらそこにかかっているというように思っていますので、こういう結果を踏まえた上で、これから管理職、現場の先生方に対して、そういったことを積極的に考えていきたいと思うのと、指導じゃないですよと最近よく言われます。支援ですよとか、援助ですよという言い方されるんですね。それで合っていると思うのですが、子供がどう動くかということ指導ではなく、支援していくということは環境をどう整えていくかという。その子が障害のある子も含めて、やりやすい環境をどう整えていくかというようなことも授業の一つ大事なことかと思っておりますので、その辺りを積極的に、学校教育課を中心にこの結果を基に考えていきたいと思っております。

以上でございます。

ほかなければ、よろしいですか。令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の概要について終わります。

日程第6

その他

(片山教育長)

それでは、日程第6、その他に入ります。
その他各課から連絡事項ありませんか。

(山内社会教育・文化財課長)

先ほど議事後援名義の中で、御承認いただきました、学校を核とした地域づくり講座について、社会教育・文化財課から御案内させていただきます。

主催はNPO法人丹波ひとまち支援機構たんえんさんがされて、こういう原型としては丹波市の市民活動支援センターで、まちづくり部がされている形ですが、丹波市の教育委員会社会教育・文化財課でもコミュニティスクールの充実、地域・学校の協働活動推進、こちらのほうも力を入れていただいているということで、たんえんさんともいろいろと連絡を取りながら、勉強させていただきながら、そういった推進をさせていただいているところでございます。このたび、この3回の講座が開催されますので、今回私から御案内させていただきます。こういった形で3回のCSマイスターさんから様々な活動の事例から、先ほどまちづくり部長からもありましたが、多くのヒントを得ていただいて、それぞれの地域でその取組のヒントにしていただきたいというような講座を結構させていただきますので、ぜひとも教育委員の皆さんにも時間の都合がございましたら、御参加いただければありがたいと思っております。場所は、丹波市の市民プラザの会議室で、それぞれの参加費は1回ごと500円が必要となり、定員20名です。申込先につきましては、QRコードを読み取っていただくと、申し込みができるということになっています。ぜひとも御参加いただきたいと思っておりますので、御案内させていただきます。

私以上でございます。

(片山教育長)

そのほか、ございますか。

(深田教育長職務代理者)

考えをお聞かせ願えたらと思います。最近新聞の中で、全国的に病気休暇で休まれる先生が多いとあります。また、特別な支援を必要とする児童生徒がすごく増えてきて、兵庫県も随分多くなってきています。

2つの点ですが、そのことについて、受け止められている思いと、丹波市の現状、課題、その辺り、何があるのか、漠然としたところですが、聞かせていただいたらありがたいです。次長と言わず教育長でもよろしいです。

(片山教育長)

新聞記事について、先生の6割強が一度は辞めたいと思ったというようなことが神戸新聞8月19日付で書いてありました。それから、休む時間がな

い、休憩ゼロという流れの中で、これも単純に言うと、働き方改革をしっかりと進めていく必要があるのではないかと考えております。ですから、それも学校によって、忙しい先生と忙しくない先生との偏りがあったりとか、いろんなことがあったりするので、バランスをきちり取って、何が原因でそうなるのかということ进行调查したり、研究したり、分析したりしながら、改善を進めていく必要があると考えております。

ただ、時間的なことだけで解決したとしても、私の感想ですが、いろんな意味での保護者からのクレームだとか、対応が難しいということで、心を痛められる先生が多いのではないかと考えております。先生方もそういったことに対してどう対応していくのかという研修ももちろん必要ですが、その辺りのところ両方があるので、何とも言えない状況が生じていると考えております。

ただ、現実的に進めていかななくていけないのは、働き方改革を進めて、先生になりたいと思う人は、やりがいがあると思っているのは事実です。やりがいがあると思っているのは事実ですが、やってみたらしんどかったという、そこで途中で辞めなくなったとか、休みたくなったとか思われると思うので、その辺りのところを学校全体で、チームワークで解決していくというふうなことをこれから真剣に考えていかなければならないと思います。職場というのは、どの職場でも市役所でも一緒だと思いますが、楽しいと思ってやる職場じゃないといけないと思っていますので、管理職の能力も必要かと思えます。

それから、特別支援学級、それから入級率、特別支援学級の設置率が非常に高いというのは、私はインクルーシブ教育のもっていき方、研修の仕方、勉強の仕方、各先生方がどれだけ特別支援教育についての知識・技能・技術等々を持っているかにかかっていると考えております。障害のある子がいるから人を1人つけてくださいというふうな希望が非常に多いわけです。これは認定こども園からずっと続けてあります。この前に県の教育委員会の特別支援教育課に直接電話して聞きましたが、非常に増えている状況で、特別支援学校も増設している。通常の高校は発展的統合で、ひっつけようとしておるが特別支援学校だけ増えている。こういう状況があるということは、障害に対する考え方が非常に細かいところまで医学の進歩によって出てきたというところがありますが、私は学校側から考えると、学校の先生方の力をさらに特別支援教育ができるような形に進んで、研修して勉強していかないと、通常の学級の中でどれだけ指導できるかということにかかって、それは程度によりますが、障害が重い子、軽い子、中度の子があるので、ただ通常の学級の中で指導できる子供さんも今は特別支援学級に入っている場合が多いのではないかと、簡単に言うと発達障害っていうのは、アスペルガーとかADHDとかによりますが、基本的に知的障害じゃない子供さんですからね。知的障害のない子供さんが特別支援学級に入っている場合が結構ある。それは、どういうふうな取扱いを、指導をしていっていけばいいのかというふうなことを、先生方がどれだけ分かっているかどうか、力があるかないか、通常の学級の中でできることが僕はあると思っていますので、そういう力をつけていく必要があるのではないかと考えています。行き過ぎると、特に県内でも丹波市の場合には、入級率、設置率が高い状況があります。それは、悪い印象を与えていて、どういう印象かということ、いやいや通常の学級で持てない子がすぐ特別支援学級に入れたらいいと思うのか、それとも人をつけたらいいのかという、こういう排除の理論みたいなことが言われる可能性もあるので、それはそんなことはないと思うので、必要な子は必要なのですけれど、そういったことの誤解を招かないためにも、私は先生の指導力、これがもう1にも2にも大事かと思えます。不登校に対するやり方も全く一緒だと思

ます。

(深田教育長職務代理者)

先生方が休む背景、それから何と申しますか、特別支援クラスやあるいは学校に在籍する子が増えていくというのも、それぞれの課題なり、現状の思いが聞かれてありがたかったですが、この前の全県の教育委員会の研修会でも、子供たちが学校から帰って、今日学校楽しかったよと言って帰るのが一番であると、講師からありましたように、学校はやはり楽しいところであるという、そういうようなことが先生方にも必要ではないかという。皆さんも聞かれたと思いますが、「学校の学を楽しんで書こう」という。そんなことまで言われた時代もありましたが、何かその辺を皆さんがそれぞれで突き詰めていったら、よい学びができるのではないかと感覚的に思っています。ただ、人と人との関係ですから、いろんなせめぎ合いが出てくるので、それを調整していく校長なり、教頭なりが必要かというような思いはしているところではあります。

今お話聞いて、改めてこれから我々も視点を強めて、勉強しなければならないというような思いがしました。ありがとうございました。

(片山教育長)

少し付け加えさせていただきますけど、繰り返しになりますが、指導ではなく支援ですよ、援助ですよという考え方がどれだけあるかということ、非常に、今楽しくするという意味では大事かと思っております。環境をいかに整えていくか、環境を変えていくかということが大事かと思っております。

日程第 7

次回定例教育委員会の開催日程

(片山教育長)

それでは、日程第 7 に行きます。次回、定例教育委員会の開催日程について事務局からお願いいたします。

(足立教育総務課総務係長)

次回の定例教育委員会は 9 月 29 日木曜日、午前 9 時から開催でお諮りいたします。会場につきましては、山南支所庁舎、教育委員会会議室です。

なお、当日は会議の終了後、山南地域統合中学校の現場視察を行っていただきたいと考えております。動きやすい服装等を準備いただきますよう、お願いいたします。

事務局からは以上です。

(片山教育長)

それでは、各委員さんの御都合いかがでしょうか。9 月の 29 日木曜日、よろしいですか。

それでは 9 月の定例教育委員会の日程は 9 月 29 日木曜日、午前 9 時から、ここ山南支所教育委員会会議室で開催いたします。

以上をもちまして全日程が終了いたしましたので、本日の定例教育委員会は閉会いたします。ありがとうございました。御苦労さまでございました。